

9月 日本共産党県議団 県議会ニュース です

両角友成議員の9月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの[議会の様子](#)からご覧いただけます。



＊ ＊少人数学級の実現について＊ ＊

両角 教職員の負担軽減や教育の質の向上という今までの教育が抱える従来の問題に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、これからの新しい生活様式を考える中で少人数学級を求める世論が高まっている。小・中学校で35人以下学級を実現した県として、全国に先駆けて20名規模学級を実現をも望む。この分野に精力的に取り組む知事の見解は。

知事 全国知事会として国に緊急提言を行い少人数編制を可能とする教員の確保を強く要望した。県としては今後とも35人以下の学級を維持できるよう教員を配置していく。

＊ ＊リニア中央新幹線建設について＊ ＊

両角 新型コロナウイルス感染拡大で暮らし方・価値観の変化、残土置き場の安全性・駅舎建設による立ち退きなど、様々な問題や新たな課題が出ている今、一度立ち止まりそれらを整理する必要があるのではないか。

知事 残土置き場は専門家の意見を伺っている。地域への丁寧な説明と対応をJR東海に求めていく。

＊ ＊再生可能エネルギーの活用について＊ ＊

両角 環境を守るため再生可能エネルギーの活用を望む。多くの市町村が補助金を出している個人住宅の太陽光発電設備に県も補助をする等を含め、県として2050ゼロカーボンに向けたより具体的な施策を打ち出してほしい。

環境部長 今回、太陽光発電設備等共同購入事業を補正予算案に計上しており、補助ではないが、一括購入によるスケールメリットを生み出すことで県民の負担軽減につながると考える。まずは本事業にしっかり取り組む。

両角 企業局が中小の水力発電所建設に向け精力的に活動していることを歓迎するが、2050ゼロカーボンに向けての企業局としてのどんなスケジュールを持っているか。

公営企業管理者 企業局の発電所数についてH28年度時点の14カ所から、令和7年度までに事業着手ベースで28カ所に倍増させ、基幹水力発電所等の5カ所の大規模改修と1カ所の出力増強工事の実施を目標として考えている。広く県民の意見を聞き、新規電源開発等に関して中長期的視点で積極的に取り組む。

＊質問を終えて＊

全国に先駆けて20名規模学級実現を望むと質しましたが、明確な答弁はありませんでした。子ども達のためにも、今後力を入れます。

